

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

技術情報第2号

水稻の葉いもちの発生状況について

8月2半旬の現地ほ場における発生状況をお知らせいたします。今後の防除対策の資料として活用をお願いします。

1 対象作物名 水稻

2 病虫害名 葉いもち

3 発生地域 県下全域

4 発生状況

- (1) 発病株率は8.9%（平年9.0%、前年29.7%）で、平年並、前年より少ない。発生ほ場率は36.4%（平年28.1%、前年59.1%）で、平年よりやや多く、前年より少ない。
- (2) 7月5半旬の調査で葉いもちの発生が多かった主に京築地域では、病斑の上位葉への進展は少なかった。一方、筑豊地域やその他一部地域において、上位葉で葉いもちが多発したほ場がみられた。
- (3) 本年の葉いもちは、発病株率0.5%未満のほ場が60%以上あるが、発病株率50%以上のほ場が一部で見られ（図3）、ほ場間差が大きい。

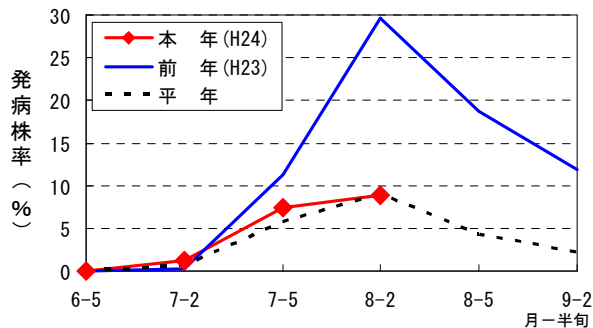


図1 葉いもちの発病株率の推移

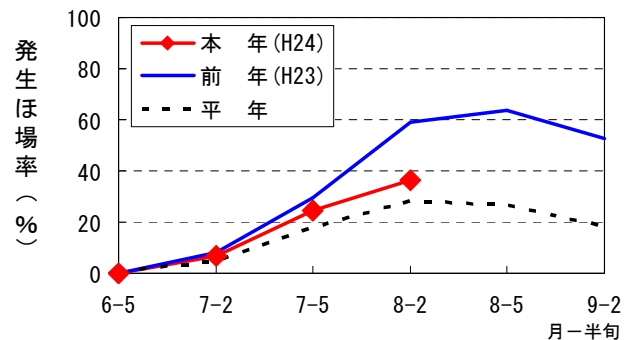


図2 葉いもちの発生ほ場率の推移

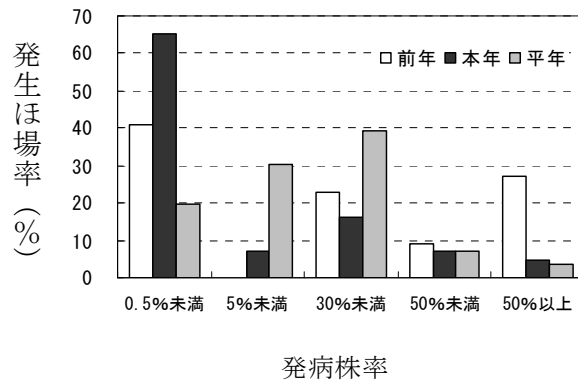


図3 8月2半旬における葉いもち発病程度別ほ場率の頻度
(調査ほ場数は、本年44筆、平年56筆、前年45筆)

5 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちが発生しているほ場や、周辺のほ場で発生している場合には、穂いもちも発生しやすいので、出穂直前と穂揃期の2回防除を基本とする。
- (2) 常発地や降雨が続き地上散布が困難と思われる場合は、早め（出穂期2週間前）に粒剤の施用を行う。
- (3) 無人ヘリコプターによる防除を実施する場合は、気温が高くなる前の早朝に実施する。気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化して防除効果が著しく低下する場合がある。
- (4) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。
- (5) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。

